

地域医療を育むために 皆様のご協力をお願いします

静岡県の医療

国立大学法人浜松医科大学 地域医療学講座の
「しずおか 地域医療 共有ハンドブック」より記載

静岡県は、長寿国である我が国の中で、健康寿命が男女ともトップクラスを誇っています。その一方で、**医師、看護師の数は全国平均を大幅に下回り、医師は全国41位、看護師は39位と下位グループ**です。

さらに、医師・看護師だけでなく病院・診療所・歯科診療所などで働くすべての医療従事者の数も、同様に**深刻な不足状態**になっています。

静岡県の医療現場の実態

厳しい労働環境…それでも患者からの感謝や敬意が糧に

病院や診療所では、多くのスタッフが優しい笑顔を絶やさず接してくれます。でも、静岡県内で勤務する医師や看護師の労働環境は、実際どうなのでしょう？

浜松医科大学地域医療学講座は、静岡県内の9つの病院職員を対象にアンケート調査を行いました。その結果、

●**医師・看護師の3/4が毎日の勤務で疲労感を感じている。**

●**医師・看護師の3/4が体調不良を押して勤務し続けている。**ことが分りました。

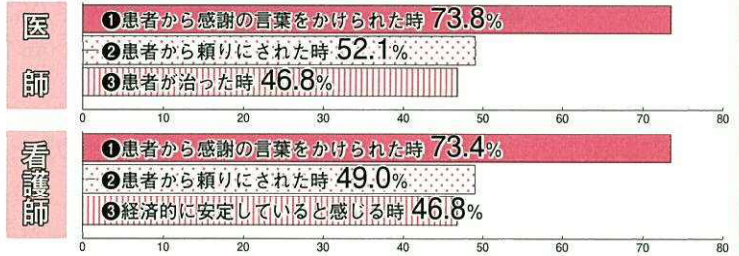
このように、私たちのことを思い、私たちのために献身的に業務に当たってくれるスタッフが多くいます。

また、このアンケートでは、こうした医師や看護師が自分の仕事にやり甲斐を感じる時についても調査しました。その結果、

●**患者やその家族との関わりを通して、やり甲斐を感じていることが分りました。**

●**献身的に患者の治療やその家族のサポートに努めている医師や看護師にとって、感謝や敬意の気持ちが仕事に励む糧になっています。**

●自分の仕事にやり甲斐を感じる時



救急の現場は深刻な状況に

「コンビニ受診」という言葉をご存じですか？

医療機関の外来診療の時間は決まっています。大部分の患者は、その時間内に受診します。しかし、中には「昼間は仕事があるから…」や「とりあえず薬をもらっておくと安心だから…」といった自分の都合だけで、緊急性を要しないと分っていながら、時間外（救急）外来を受診する患者もいます。こうした行動が24時間営業のコンビニエンス・ストア（コンビニ）で欲しいものを買う感覚に似ているから、コンビニ受診と呼ばれています。

このような受診は、医療スタッフが軽症患者に追われ重症患者や救急に対応する大切な機能に支障が生じかねません。また、医師や看護師がコンビニ受診への対応に疲弊してしまい、体調を崩し診療に支障を来す、離職するなどの弊害も生じています。

急に具合が悪くなった時に、診療を控える必要はありませんが、いつ、どの医療機関に行くべきかを適切に判断して医療機関を利用することが大切です。

そのためには、

●**気軽に相談できる「かかりつけ医」を持つこと**

●**その上で急患センターや救急医療センターなどの一次救急医療機関と総合病院などの二次救急医療機関を適切に利用することをお勧めします。**

かかりつけ医とは

健康づくりの頼りになる身近なパートナー

かかりつけ医は、今、かかっている病気やケガを治療してくれるだけではありません。

ふだんの身体の状態や家族の病歴も把握しているので、食事をはじめとする日常生活などに関するアドバイスを通して、健康の維持・増進をサポートしてくれます。

さらに、重い病気やまれな病気が疑われる場合、より高度な医療機関を紹介してくれます。かかりつけ医と高度な機能を持つ医療機関が連携して、地域の中で病気を治し、生活を支えてくれるのです。

また、「かかりつけ」として歯科医や薬局を持つこともお勧めです。

「かかりつけ歯科医」は、虫歯や歯周病などの予防や治療を行ってくれます。また、「かかりつけ薬局」は、服用する薬の効用や正しい飲み方を詳しく説明してくれます。併せて、複数の医療機関にかかっている場合に、それぞれで処方された薬の飲み合わせもチェックしてくれます。